

## 研究発表会の振り返り

### 第4学年体育科

#### 「全Aゴルフ選手権（投の運動）」

授業者 則藤一起

#### 本時の主張点

ボールをまっすぐ飛ばすにはどうすればよいかを問い、同質ペアで考えながら運動を行うことで、投げる手と反対の手の使い方に気付き、より主体的にコースで投げる姿につながるだろう。

#### 1. 授業づくりの「しかけ」と子どもの自己調整

##### 本時における授業づくりの「しかけ」

- ①課題設定の場面において、投げ手と反対側の手の使い方に対する問いかけ
- ②4A投げっぱなしセンターでの活動時において、気を付ける点への声かけ

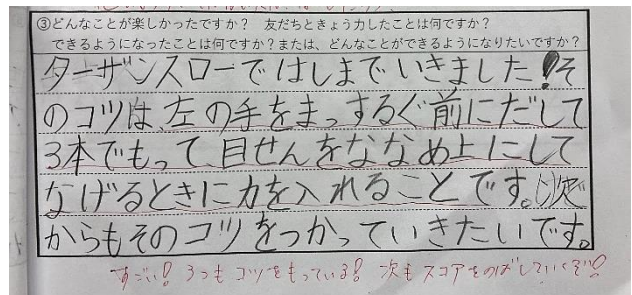
①前時に“横向きから投げる”ということについて共有しており、その方法で投げっぱなしセンターや全Aコースで行うと、投げる力がついたと感じた子どもが多かった。しかし、コースの感想は、まっすぐに投げたいという思いが強かった。よって本時では、「まっすぐに投げるためにはどうすればいい？」という課題を設定し、そのことについて話し合った。



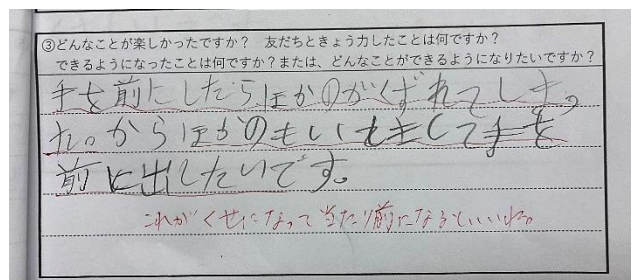
私自身、足の踏み出しと投げ手と反対側の手（以下、反対の手）の使い方が大事だと考え、そこに気付かせるように進めようとしたが、子どもたちからは“目線”や“踏み出し足をクロス

させる”という考えが出た。目線は大切なことであるが、共有しにくいと考えていたし、踏み出し足をクロスさせることは身体を横向きから投げることと同じだと考え、反対の手についてこちらから着目させた。オレンジ②が「反対の手が前に出ている。考えていなかった。」と気付き、反対の手を前に出して投げることを試してみることにした。

②投げっぱなしセンターでの活動では、反対の手について声をかけるようにした。そのことで、投げる目標が少し上になり、また、腰もねじっていくと考えたからである。水①男子、紫③女子らは意識的に反対の手を「パー」にして前に出していた。紫②男子には「どこに気を付けてる？」と問うと、「左手出してみる。」というので、数回一緒にした。水⑤女子は反対の手が初めから体にくっついており、肘より下は曲げて腰にくっついていてという状態である。腰をねじれていないわけではないがバランスをとりなくそうであったので声をかけた。しかし、今までの投げ方が染み付いており、「左手、前になんか出せやんよ。」と言った感じであった。



比較的上手に投げられる黄③女子は、反対の手の使い方、目線、力を入れるタイミングを意識できていることが分かる。



先にも述べた紫②男子は、反対の手の使い方を

